



まちづくり支援業務の 目的は

山岡 幹雄 議員

優先的な市街地整備拠点を選定する

産業建設部長



▲調査対象エリア図

問 令和5年度に実施したまちづくり支援業務の事業化の経緯とその目的は。

答 都市計画マスタープランにおいて鉄道駅周辺は、市街化区域の編入を検討する区域に位置付けられており、優先的な市街地整備拠点を選定するために、評価・分析を実施した。

問 どのような観点で各鉄道駅周辺の評価を実施したのか。分析結果は。

答 人口密度や人口増加率、鉄道の運行本数、医療・福祉・商業などの施設の分布状況、下水道や都市計画道路の整備状況など様々な評価指標を定め、数値化した定量的な評価を実施した結果、藤浪駅、勝幡駅、佐屋駅、富吉駅周辺の評価が高い傾向となった。

問 各鉄道駅周辺の課題は。選定に至らなかった駅周辺のまちづくり方針は。

答 公共交通の利便性は、勝幡駅、富吉駅周辺で評価が高く、刈高駅、町方駅周辺は低い傾向となった。洪水等の災害耐性は、町方駅、藤浪駅周辺で評価が高く、永和駅周辺、富吉駅周辺は低い傾向となった。選定されなかった駅周辺は、社会経済情勢の動向を見据え、事業化を検討していく。

問 市西部の鉄道駅に隣接していない既存集落の対策は。

答 市街地調整区域は都市計画法で土地利用が制限されている。引き続き無秩序な開発を抑制しつつ日常生活を支える機能や安全な住環境の確保に努めていく。

問 事業方針及びスケジュールは。

答 対象地域の方々が主体的に事業推進を図っていくことが重要と考える。今後は、市街化区域への編入基準等を踏まえたまちづくりビジョンを策定し、優先的に市街地整備を図る拠点を確定していく。

問 人口減少下において市街地整備を推進する市の将来像について市長の考えは。

答 各鉄道駅の長所を生かしつつ課題解決し、計画的に市街化を促進していく。鉄道駅に隣接していない地域も各種課題解決に取り組んでいく。

その他の質問

●人口戦略会議のレポートに対する市の見解は